

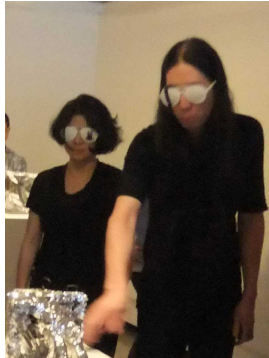


ボランティア通信 (Vol.5)

発行日：2012年11月25日

ニューアート展NEXT2012 動く絵、描かれる時間：Phantasmagoria 9月28日(金)～10月17日(水)

横浜を拠点に活躍する新進気鋭の映像作家、金澤麻由子さんと SHIMURAbros さんを取りあげ、横浜市民ギャラリー1～2Fにて開催された本展では、出品作家の新作インスタレーションの制作ボランティアや開催期間中のアンケートボランティアなど、ボランティアも積極的に活動しました。



★制作ボランティア★ 9月15日(土)の10時30分から17時まで、新進気鋭の作家、金澤麻由子さんのニューアート展出品作品の制作に、女性7名、男性3名のボランティアがギャラリースタッフ3名とともに参加。新作「時の間」で使う、藁に見立てたウッドパッキンをアクリル絵の具で染める作業は、作業場にビニールシートを敷き、その上に新聞紙を広げて、材料を「染めて→絞って→広げて→乾かす」を繰り返します。慣れない作業に絵の具で衣服が汚れるのも忘れて悪戦苦闘し、無事に材料を染めることができました。(尾浦孝夫)

★アンケートボランティア★ 期間中の3日間、来場者が比較的多いと予想された13時から15時に、アンケートボランティアを体験。最終的には本展の入場者数は4,036名で、アンケートの回答者数341名、回答率8.45%でした。ギャラリー利用にあたっての「職員やスタッフの対応、サービス」「ギャラリーの使い勝手や清潔さなど快適性」については、5段階評価で平均4.3という評価になりました。来場者一人ひとりにアンケートへのご協力を呼びかけると、みなさんたいへん好意的に接してくださり、呼びかけへの手応えを感じました。アンケートを記入していただく際に、多くの方からご指摘があったのが、各作品のタイトルがわかりにくいことでした。こうしたご意見が今後の展示の参考になればと思います。

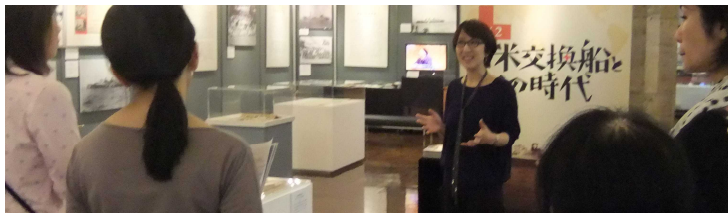
アンケートにご協力いただいた方々が市民ギャラリーでの思い出も話してください、伊勢山へ移転してもまたぜひ観に行きたいと、移転後の期待も多く耳にしました。また、金澤さんが描いた絵本原画の自然の中にたまたま動物の絵を見ながら、「昔の横浜にはこんな所があって、よく藁や草むらに寝そべて遊んだのよ！」と、幼少の頃を懐かしく話される年配のご夫妻との出会いも印象的でした。(川角富貴子)



上/10月6日(土)のアーティストトークでの金澤麻由子さん(左)とSHIMURAbrosのユカさんとケンタロウさん
下/染色作業中のボランティア

アート散歩 vol.4 日本郵船歴史博物館見学レポート

10月13日(土)10時～ 市民ギャラリー1名、ボランティア4名



松本館長代理にご案内していただいた日本郵船歴史博物館は日本郵船横浜支店の建物を博物館に改装したものです。その外観と内装の趣は明治維新以降の海運事業が華やかな時代を象徴するものです。その反面、今回の企画展「日米交換船とその時代」は戦争の残酷な一面を考えさせられる展示となっていました。太平洋戦争開戦時に、日米双方に在留する「敵国人」とされる市民を交換するために仕立てられた特別な「交換船」をめぐり、一般市民と海運事業者が翻弄される様子が、貴重な写真・文書・乗船者の証言映像等、色々な形で展示されており、学芸員の海老名さんにそれぞれを分かりやすく解説していただきました。(鈴木通弘)

●所在地：横浜市中区海岸通3-9 TEL045-211-1923 みなとみらい線馬車道駅6番出口から徒歩2分、JR関内駅北口または市営地下鉄4番出口から徒歩8分 ●開館時間：10時～17時(入館は16時半まで) ●休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)、12月11日～14日、年末年始 ●入館料：一般・大学生/400円 シニア(65歳以上) 中高校生/250円

*「日米交換船とその時代」展は平成24年12月9日(日)まで開催中

●●ハマキッズ・アートクラブ●●

子どもたちの創造力を育み、集中力を養う造形プログラム
タンザニアの絵画ティンガティンガに挑戦!



Michael Lehenu
1973年、タンザニア生まれ。叔父E.S.ティンガティンガ氏の教えを継ぎ、13歳頃より画家として活動を開始。日本を拠点とし、世界で活躍するティンガティンガ画家

アフリカ西海岸にあるタンザニアの独特な絵画、ティンガティンガの講師は、世界中にティンガティンガを紹介しているマイケル・レヘムさん。9月9日(日)に、アフリカの動物や鳥を中心に、色あざやかな独自の技法を小学生30名の子どもたちに指導いただきました。絵の具は乾くのが早い、いわゆる「ペンキ」で、子どもたちはお手本の絵を見ながらマイケルさんの丁寧な指導のもと、描き進めていきます。保護者のみなさんも興味津々で見守る中、あざやかな作品が出来上がりました。(鈴木通弘)